

海と地球のシンポジウム

要旨原稿の作成要領

1. 要旨原稿の仕様（下記「要旨原稿サンプル」参照）

① ページ設定

- ・ A4 サイズの枠取りの中で1段書きとし、フォントは **MS 明朝** を用いてください。
- ・ 余白は上下 30mm、左右 25mm
- ・ 1 頁あたりの行数は **40 行以内**

② 書式

- ・ 1 課題につき、**A4 版 2 ページ以内（図表を含む）**
- ・ 原稿の第 1 頁の **冒頭部 6 行以内** に発表課題名、代表発表者氏名及び共同発表者氏名、所属機関名を記載してください。その後、**7 行目から本文** を記載してください。
- ・ 代表発表者と共同発表者の区別をするために **代表発表者氏名の前に○印** をつけてください。

【発表課題名】

- ・ フォントは **太字 14pt 中央揃え**

【発表者名・所属機関名】

- ・ フォントは **10pt 中央揃え**
- ・ 所属機関名は発表者氏名の後（）内に記入。AORI 所属の方は所属表記を（東京大学大気海洋研究所）、JAMSTEC 所属の方は所属表記を（海洋研究開発機構）に統一してください。
- ・ 発表者氏名について、同じ所属機関の発表者が続く場合は、全角「・」でまとめてください。
- ・ 発表者氏名について、所属機関名が異なる場合は全角「,」で区切ってください。

【本文】

- ・ フォントは **10pt 両端揃え**

【図表】

- ・ 図表は静止画像のファイル形式（BMP 形式・GIF 形式・JPEG 形式いずれか）で保存したものを本文に貼り付け、**キャプションは 8pt** でご記載ください。
- ・ **カラー・白黒のいずれも可**です。（要旨はシンポジウムのホームページにて公開します。印刷・印刷物の配付はいたしません。）

2. 要旨原稿の提出方法

- ・ **Word ファイル**とその **PDF ファイル**を発表課題応募フォームにアップロードください。
- ・ ファイル名は下記のとおり設定ください。発表分野の**数字は半角**で記入してください。

「**発表課題応募フォームで選択した発表分野の数字_代表発表者氏名_要旨**」

例) 「1_海洋太郎_要旨.docx」「1_海洋太郎_要旨.pdf」

3. 校正

- ・ 海と地球のシンポジウム実行委員会では本文の校正は一切行いません。発表者氏名・所属機関名は応募者が責任を持ってご確認ください。
- ・ 文字のフォント及びサイズは、統一のため変更させていただく場合がございます。

余白 30mm

発表課題名は太字 14pt、中央揃え

西部熱帯太平洋のエルニーニョ発生との関連

○海洋太郎 (AORI), 未来二郎 (太平洋大学),
夏島花子・関根睦男 (JAMSTEC), 青森三郎 (インド洋大学)

発表課題名から本文まで 6 行

発表者氏名・所属機関名は 10pt、中央揃え

余白
25mm

余白
25mm

エル・ニーニョ * 1 現象のメカニズムで開発された海洋観測用ブイです。このブイは、海上気象 (風向・風速、気圧、気温、湿度、日射、雨量) と水温、塩分、流向・流速を観測し、1 時間毎の平均データを、アルゴス衛星通信 * 2 経由で陸上にご送ることができます。このブイは、海洋地球船「みらい」の就航を待って設置されてきましたが、現在 (2001 年 3 月現在) は、10 基 (2000 年末に 18 基となる予定) のブイが赤道海域の西方を中心に設置されており、それらのブイからは、衛星を通して毎日、海洋科学技術センターの「むつの研究室」にデータが送られてきています。なお、同様のブイに「アトラスブイ」というものがありますが、これは、米国の NOAA (National Oceanic and Atmospheric Administration : 米国海洋大気局) が所有するブイで、太平洋中央部から東方に設置されています。

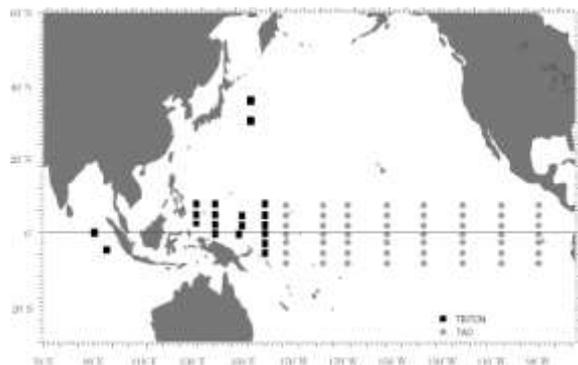
本文は 10pt、両端揃え

表層の温度躍層 (温度が急激に変化する深度) を代表する 20℃ の等温線は、熱がどれだけ蓄積されているのかを示す一つの指標となっており、この等温線が深ければ暖かい海水が表面に集められていることを示しています。

1997 から 1998 年に起きた史上最大とされたエル・ニーニョでは、1996 年 3 月に、西太平洋で最大 190m の深度に 20℃ の等温度線が観察され、この海域に暖水が蓄えられました。そして、この等温度線は、エル・ニーニョの発生にともない 140m まで浅くなりましたが、この浅くなった部分の暖水は、東太平洋に運ばれ、それによりペルー沖では、20℃ の等温度線は、平均値よりも 80m も深くなりました。このように、エル・ニーニョの前年に西太平洋に暖水が蓄えられることがエル・ニーニョの発生の一つの条件となっていることを示しています。



設置されたトライトンブイ



設置されている海域

キャプションは 8pt

図表はカラー・白黒いずれも可

余白 30mm